

1 主題名 人の生き方から学ぶ 内容項目2－(2)人間愛
(関連項目4－(6)家族愛)

2 資料名 クラウディアのいのり ポプラ社

3 主題設定の理由

(1) 価値について

人間愛(項目2－(2))は主として、他の人に対する思いやりの心をもつようにすることをねらいとしている。思いやりの心とは、相手の心や状況を推し量る心で、相手の中にいかに自分を見るかということである。社会生活全般を見ても、相手の心を考えない無神経な言動や振る舞いからお互いがぎくしゃくしたりなどということが往々にしてある。

中学校での3年間は人として心身ともに大きく成長する時期である。中学生になると自我が芽生え、人間としての生き方についての関心が高まり、他の人との関わりの中で生きていくこともわかるようになってくる。しかし、世の中の状況や生徒を取り巻く環境を考えてみると、他の人のことなど考えない利己的な行動や言動が見られることが多い。人間的なふれあいの場も急速に少なくなっている。この時期の生徒に「相手は何をしてほしいと望み、何をしてほしいと思っていないのか」と相手の心を考える思いやりの心がいかに大切なものなのかを感じ取らせることは、一人の人間として社会で生きていく生徒たちにとって必要不可欠なことであると考えられる。

また人との関わりの中で一番身近な存在は家族であるが、中学生ともなると友達とのつながりが大切になり、家族や親子の関係が希薄になりがちになってくる。しかし、いろいろな場面で家族が温かく見守ってくれていたり、自分のために支えてくれているという思いを感じ、感謝して自分の人生に向きあうことは、生徒にとって大変重要なことだと思われる。これから生徒は進路決定に向けて数々の決断を迫られる。親からの愛情を感じ、自己肯定感をもって臨むためにも家族愛(項目4－(6))という点からもこの題材を扱うことは必要であると考えられる。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は男子16名、女子15名で構成されている。明るく、落ち着いて学校生活を送っている。男女の仲も良く、行事をはじめ、様々な活動に協力して取り組むことができる。しかし、仲間に対する心ない言動が見られることがある。相手がどのような状況なのかを考えず、軽はずみな行動や発言をしてしまったりする。また人間関係が深まっておらず、ともすると仲間に対して無関心になってしまう場面も見られる。これから先、自らの進路についての考えがさらに高まっていくことで、他の人のことなど後回しにされがちになることは容易に想像できる。そのような中でも人間的な温かさを失うことがないようにさせたいものである。道徳の授業についての意識は次の通りである。

(調査日 6月19日 回答 30名)

1. 道徳の授業は好きですか。 好き 11人 嫌い 5人 どちらでもない 14人

2. 「思いやり」とはどういうことだと思いますか。

- ・人の気持ちを考えて、思うこと
- ・自分の勝手ではなく友達のことをしっかり考える
- ・困っている人がいたら助ける
- ・声をかける 荷物を持ってあげる
- ・相手を気遣ったり相手が気づかないことを気づかせてあげる
- ・その人の事を思ってそれが本当にその人のためになるかを考え、行動すること
- ・一人の人がいたら話しかける
- ・人のことを思って行動する、やさしくする
- ・自分がやられていやなことは相手にしない
- ・自分がやってもらってうれしいこと
- ・優しい気持ちで接すること
- ・他人に気を配る

調査の結果より、道徳の授業についてプラスのイメージを持っている生徒は意外に多かった。「話に共感できる」「人の気持ちがわかる」「仲間のいろいろな考えが聞ける」「自分と向き合える」などが楽しさにつながっているようである。しかし興味・関心がない生徒がクラスの3分の2を占めており、実際の授業でも自分の考えを積極的に発言できる生徒と、そうでない生徒に分かれ

ている場面が見受けられる。

「思いやり」に関しても多くの考えが出たが、これまでの経験の中で「そうすべきだ」「そうすることがよい」と理解している状況であって、実際の学校生活でどこまで実行に移せているのか疑問が残る点もある。また自分の利害が絡むことでその「思いやり」の考えや言動も揺らぐように感じる。

(3) 資料について
あらすじ

クラウディアはロシア革命の混乱の中で生まれ育ち、幼い頃に両親を亡くして一人で生きてきた女性である。ある夏の日クラウディアは一人の日本人の男性、彌三郎と出会う。互いに心を通わせた2人はやがて結婚し、ささやかな暮らしをはじめめる。いつ捕まるかおびえながらも、2人は幸せな生活を送る。しかしある時、クラウディアは彌三郎が日本を恋しく思っていること、また日本で今でも彌三郎を待ち続けている家族の存在を知る。自分がまたひとりぼっちになったとしても、人の悲しみの上に自分の幸せをきづくことはできないと考えたクラウディアは彌三郎と別れる決心をする。

この題材は 自分よりも愛する人の幸せを心から願い、求める「深い愛」がテーマである。生徒が普段考える「思いやり」とは意識的に差があるかと思う。いろいろな場面での「思いやり」があり、その一つとして本題材を扱いたい。クラウディアの生き方は自分の利害にかかわらず、愛する人の幸せを願い、行動するものである。自分の利害が絡むことで揺らいでしまい行動が起こせないことは我々人間には多々ある。そういう人間の弱さに触れながら、クラウディアの「思いやり」「愛」の深さを生徒にとらえさせたい。また相手の幸せを願うだけでなく、それを実現させるための実行力・意志の強さにも着目し、生徒自身が日々の生活の中で強い意志を持って「思いやり」を実践するためのきっかけにしてほしいと考える。

また本題材は戦争を背景として、引き裂かれた家族についても描かれている。彌三郎の家族の視点に立って考えると、いつまでも彌三郎の帰りを待ち続ける妻や子の思いはまさに家族愛であるといえる。家族愛という点にも触れ、生徒の家族、両親への思いも考えさせたい。

(4) 研究テーマとの関わり

本校の研究テーマは「主体的に活動する生徒 ～思考力、判断力、表現力に着目して～」である。本時の指導内容では自分の意見や考えをしっかりと持たせ、その意見をもとにした話し合いの活動の中で、積極的に意見を出させるようにしたい。そのために読書指導員と連携し、朗読や資料の提示などを行い、題材が生徒にとってよりわかりやすいものになるようにする。資料を文字からでなく視覚聴覚を通してとらえることで、道徳授業の堅苦しさをを感じる生徒にとっても自然と授業や題材に入っていけるだろう。その中でクラウディアや彌三郎の状況や心情に迫っていきたいと考える。また自分自身の考えも仲間の意見も尊重する雰囲気をつくり、個々の生徒の意見の深化を図りたい。

4 指導計画（2時間扱い）

月日	学習の場	学習内容	支援の手だてと留意点
6月25日	道徳	彌三郎の生い立ちや歴史的背景について知る	戦争当時の状況や悲惨さについて理解させる
7月2日 (本時)	道徳	クラウディアの生き方から思いやり、人間愛について考え、今後の自分自身の生き方を考える	生き方を考えさせるために、多くの生徒の意見を聞き、仲間の価値についても考えさせて、視野を広げる。

5 本時の指導

(1) ねらい

- ・自分よりも相手の幸せを考え行動する深い愛について学ぶことができる。
- ・相手の立場に立って考え、行動する思いやりの心をもった生き方を目指すことができる。

(2) 展開

- ・留意点 ○支援の手だて ◇評価の観点（方法）
- ☆思考力・判断力・表現力に着目して指導する場面

過程	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	支援の手だてと留意点
導入	1. クラウディアの紹介を聞く。		
	2. 資料の朗読を聞く。		・画面が見えるようにあらかじめ隊形をつくり、座らせる。
展開	3. この話に関わっている戦争について確認する。		・前時の内容を思い出させるようにする
	4. クラウディアの生き方について考える。		○自分を重ねて考えさせるための発問なので、クラウディアの気持ちになって自由に発言させる雰囲気をつくる
	○彌三郎と結婚して、クラウディアはどんな気持ちだったか。	・家族ができてうれしい。 ・楽しい。	・ワークシートに記入させる時と、発表させるときの区別をつけ、仲間の意見がしっかり聞けるようにする。
	○どうしてクラウディアは日本にいる彌三郎の家族を捜そうとしたのか。	・日本の家族に悪い。 ・彌三郎の寂しそうな顔を見てられない。 ・彌三郎の家族のことが知りたい。	・一人で生きてきたクラウディアにとって、彌三郎がどんな存在だったかをとらえさせる。
	◎あなたがクラウディアだったらどうするだろう。	・日本の家族のことは言わない。 ・日本のことを忘れられるようにここでの生活を楽しめるようにする。 ・一緒に日本に行って事情を話す。	・彌三郎に対するクラウディアの愛を感じ取らせる ☆自分と照らし合わせて、クラウディアの深い愛、堅い意志と覚悟について考えさせる。
まとめ	5. 思いやりについて考える。		・ワークシートに記入させるために時間を十分にとり、価値を深めさせたい。
	○感想を発表する	・自分はいままでできない。クラウディアはすごい人だ。 ・クラウディアは強い人だ。 ・もっと早く別れればお互いの悩みが軽くすんだ。	・仲間の感想を聞くことで考えに広がりをもたせる。 ◇いろいろな考えがあることを知り、思いやりについて考えることができたか。（記述） ◇思いやりの心をもって行動しようとする気持ちが持てたか。（記述）